

平成30年度第8回移動市長室会議録

(平成30年11月29日)

1 日 時：平成30年11月29日（木曜日）9時55分～11時30分

2 場 所：カミーリヤ

3 出席者：

『筑紫野市主任児童委員会』

石内会長、米元委員長、主任児童委員（12人）

『筑紫野市』

藤田市長、檜木健康福祉部長、渡邊生活福祉課長、杉村秘書広報課長、
栗原生活福祉課係長、板井社会福祉協議会総務課係長、木村社会福祉協議会総務課
森田秘書広報課係長、山崎秘書広報課係長、末吉秘書広報課主査

4 内 容：懇談

○（事務局） 筑紫野市では、市民の皆様の御意見を市政に生かしていくことを目的として、月に1回程度、各団体やグループの皆様と移動市長室を行っております。筑紫野市民生委員児童委員連合会の皆様とは、平成24年、第15回の移動市長室で理事会の皆様と懇談をさせていただいたところがございます。今回は民児連の中の主任児童委員会の皆様との懇談ということで、本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

それでは、ただいまから平成30年度第8回、通算86回目となります移動市長室を、地域・学校・家庭をつなぐ架け橋として活動される主任児童委員会の皆様と行っていききたいと思います。よろしく願いいたします。

本日の懇談内容は会議録を作成し、公表させていただきます。撮影した写真や動画につきましては、市のホームページ、広報紙に掲載させていただきますので、御了承ください。

初めに、藤田市長が皆様に御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、おはようございます。筑紫野市長の藤田陽三でございます。石内民生委員児童委員連合会会長さん、また、米元主任児童委員会委員長さんを初め、主任児童委員会の皆さんには、筑紫野市の子どもや子育てに関する幅広い支援を行うために、日ごろよりさまざまな活動に取り組んでいただき、心から感謝を申し上げます。

本日は、平成30年度第8回目、通算して第86回目の移動市長室として主任児童委員会の皆様方と懇談をすることができましたことを大変うれしく思っているところでございます。

主任児童委員の皆様には、民生委員・児童委員の中でも子どもや子育てに関する支援を専門に活動し、地域担当の民生委員・児童委員と連携をしながら、子育て支援や児童健全育成活動等に取り組まれていると聞き及んでおります。本市といたしましても、子育て支援の推進に注力しており、主任児童委員との連携が重要であると、このように考え、感じているところでもございます。

本日は、皆さん方のいろいろな活動の中での思いをしっかりとお聞きしながら懇談させていただきたいと、このように考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。これをもって冒頭の挨拶と代えさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○（事務局） それでは、本日は筑紫野市民生委員児童委員連合会の石内孝典会長に御出席いただいておりますので、御挨拶をお願いいたします。

○（石内会長） おはようございます。連合会の石内です。よろしくお願い致します。本日は、

主任児童委員との移動市長室を開催していただきまして、ありがとうございます。主任児童委員は、民生委員・児童委員の中から小学校校区に1人ずつ、計11名の主任児童委員が配置されております。主に児童福祉問題を専門に関する活動を行っております。児童福祉法に基づき、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように子どもたちを見守っています。本日はよろしく願いいたします。

○（事務局） ありがとうございます。続きまして、筑紫野市主任児童委員会の米元義広委員長に御挨拶を頂戴いたしたいと思っております。

○（米元委員長） こんにちは。私、主任児童委員会の委員長をしております米元でございます。どうぞよろしく願いいたします。今日は、新庁舎の開設準備などで大変お忙しい中、御訪問いただき、本当にありがとうございます。今日のために、市職員の方、また、社協の職員の方には3回の打ち合わせ会議をいただきまして、本当にありがとうございます。おかげさまで、このように市長と直接お話しができる機会に恵まれましたことを委員全員、大変喜んでおります。

さて、近年、さきほど会長が申しましたが、小学校や中学校で起こっているいじめ、虐待など、大変子どもたちを取り巻く環境は激変しまして、それから民生委員制度の中に主任児童委員制度ができました。私たちは、主に小学生と中学生を対象としたさまざまなことで困っている子どもたちの保護、それから救済に向けて一生懸命頑張っておるところでございます。

今日のテーマは、「地域・学校・家庭をつなぐ架け橋」、そうしましてサブテーマとして、「～hand in hand for the future of children～ 子どもたちの未来のために手をつなごう」を表題として上げさせていただいております。虐待やネグレクト、目に見えない貧困など、困っている子どもたちがいる御家庭はほとんど地域社会から孤立して生活してあります。私たちは、各関係機関や地域の子ども食堂などの皆さんの御協力をいただき、さまざまなことで困っている子どもたちや御家庭に私どもの支援が届けば、ありがたいと思っております。

今から各委員が活動内容や自分が経験したことなどをお話ししますので、ぜひ、今日の会議が実りのあるものになるように期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

○（事務局） ありがとうございます。それではここで、本日の参加者の自己紹介を行ってまいります。まず、市のほうから行います。私は、本日の進行を務めます秘書広報課長の杉村です。どうぞよろしく願いいたします。

- （**檜木健康福祉部長**） 皆さん、おはようございます。筑紫野市健康福祉部長の檜木です。本日は、皆様方の活躍状況をとくとお伺いしたいと思っておるところでございますので、よろしく願いいたします。
- （**生活福祉課**） こんにちは。健康福祉部生活福祉課長をしております渡邊です。どうぞよろしく願いします。
- （**生活福祉課**） 生活福祉課地域福祉担当係長の栗原です。
- （**秘書広報課**） 秘書広報課広報広聴担当係長の山崎です。
- （**秘書広報課**） 同じく秘書広報課広報広聴担当の末吉です。
- （**秘書広報課**） 秘書広報課秘書担当係長の森田です。
- （**社会福祉協議会**） 社会福祉協議会の総務課地域福祉担当係長をさせてもらっております板井です。民生委員児童委員の事務局も仰せつかっておりますので、どうぞよろしく願いいたします。
- （**社会福祉協議会**） 同じく筑紫野市社会福祉協議会地域福祉担当の木村です。主任児童委員さんを担当させていただいております。よろしく願いいたします。
- （**事務局**） 続きまして、皆様にもお名前と担当校区、活動歴等をお願いいたします。
- （**石内会長**） 筑紫野市民生委員児童委員連合会会長をさせていただいております石内です。地区担当を皆さん持っておりますけど、私は湯町のほうで担当しております。よろしく願いします。
- （**米元委員長**） 主任児童委員会の委員長をしております米元義広と申します。天拝地区に所属しております。小学校は山口小学校を担当しております。中学校は天拝中学校でございます。よろしく願いいたします。
- （**主任児童委員**） おはようございます。二日市地区民児協の富松です。活動歴は7年になります。よろしく願いします。
- （**主任児童委員**） おはようございます。天拝地区の畠添克美と申します。活動歴は4年になります。担当小学校は二日市小学校です。
- （**主任児童委員**） おはようございます。二日市東地区民児協の井上といいます。活動歴は7年になります。よろしく願いします。
- （**主任児童委員**） おはようございます。二日市地区民児協の吉岡です。活動歴は10年になります。よろしく願いします。
- （**主任児童委員**） 筑紫野中地区民児協の渡辺と申します。よろしく願いします。活動

歴は6年になります。

- （主任児童委員） 筑紫野中地区を担当しております山内と申します。任期は1年になります。よろしく願いいたします。
- （主任児童委員） おはようございます。筑紫野南地区担当の森田です。任期は10年になります。よろしく願いいたします。
- （主任児童委員） おはようございます。筑紫野南地区民児協の赤田と申します。活動歴は10年になります。よろしく願いします。
- （主任児童委員） おはようございます。筑山地区担当の永川と申します。活動歴は10年になります。よろしく願いします。
- （主任児童委員） おはようございます。筑山地区担当の坂島と申します。活動歴は3年になります。よろしく願いいたします。
- （事務局） ありがとうございます。続きまして、施策概要の説明を筑紫野市からさせていただきますと思います。担当の末吉がいたしますので、よろしく願いいたします。
- （秘書広報課） 移動市長室では、市民の皆さん方に市のことを知ってもらおうという趣旨でもらせていただいておりますので、皆さんの報告を聞く前で恐縮ですが、先に筑紫野市の説明をさせていただきます。

まずは、予算のことをお伝えしますが、筑紫野市では、市民の皆さんに納めていただく税金などをもとにさまざまな事業などを行っているところです。

1年間の予算についてお伝えしますが、こちらが9月補正後の歳入予算の内訳です。予算は毎年4月から翌年3月31日において執行していくこととなりますが、予定をしていなかったさまざまな要因が生じることにより、補正予算という形で調整することがあります。9月議会が終わった後の補正予算後ということで紹介させていただきます。予算額が358億6632万6000円となっております。オレンジ色の部分が自主財源、市が自主的に調達できるお金です。全体の52.9%を占めます。その中で市税の額というのが133億1751万2000円、全体の37.1%になります。次に、緑色の部分、こちらが依存財源となります。47.1%です。国や県からのお金や、大きな事業を行うときの銀行などからの借入金、市債などがあります。

続いて、こちらが歳出予算の内訳です。それを使う目的によって分類した円グラフです。歳出予算の中で一番大きな割合を占めているのが民生費です。子どもや高齢者、障がい者などの福祉に使われ、予算の38.3%を占め、その額は約137億3500万円です。

以下、総務費、衛生費、公債費、教育費、土木費、その他という中には、議会や農業、商工業、消防などに使われる予算があります。これらの総額358億6632万6000円によってさまざまな事業を行いながら、10万3000人余の市民の皆さんが安全で安心して快適に生活していけるよう取り組んでいるところです。

続いて、まちづくりの方針である総合計画についてお伝えします。平成28年4月にスタートした第五次筑紫野市総合計画は28年度から31年度を計画期間としています。将来都市像として「自然と街との共生都市 ひかり輝くふるさと ちくしの」を掲げています。

この将来都市像実現のための5つの政策として、藤田市長就任以来の公約でもあります。行財政改革、産業・雇用をつくる、生活をまもる、共助社会づくり、未来をつくる、この5つを柱とし、さまざまな事業に取り組んでいるところです。

さらに、総合計画では重点施策として、こちらも5つ、市庁舎の建設、高尾川・鷺田川の浸水対策、地域コミュニティづくり、地域交通対策、筑紫駅西口土地区画整理事業、これらを掲げて積極的な推進を図っているところです。

続きまして、皆さん方の活動に関連するような事業を幾つか御紹介したいと思います。

先ほどの5つの政策のうち、未来をつくるという中では、子育て支援の推進などの施策を進めております。もちろん御存じの事業もいっぱいあると思うのですが、予算も含めてということで御紹介させていただきます。

地域子育て支援センター事業、予算額が1283万5000円です。親子で集える子育てサロンや親子教室、子育てに関する相談などを行う子育て支援センターにかかわる事業費です。

次に、病児保育事業、予算額が1286万円です。仕事などの都合のため、保護者が家庭で見てあげることができない病気の子どもさんを保育する事業です。今年度より病後児保育から病児保育へと拡充させていただいたところです。

次に、乳児家庭育児支援事業、予算額が697万7000円です。乳児のいる全家庭に対し、家庭訪問を行っています。さらに、産前・産後のサポートを必要とする家庭に対して赤ちゃんホームヘルパー派遣事業として実施しています。

次に、家庭児童相談事業、予算額が438万2000円、家庭児童相談室にかかわる事業費です。

また、その他に相談機関ということでお伝えしますと、療育相談事業、予算額が759万円、こども療育相談室にかかわる事業費になっています。

それから、ヤングテレホン相談事業、予算額が324万3000円です。

次に、利用者支援事業、予算額が235万9000円です。子育て中の親子や妊娠をしている人などが地域のさまざまな子育て支援事業などを円滑に利用できるようにということで、いろいろな相談機関も含め、部署が書いてありますけれども、それらの情報提供や相談・助言などの支援を行うための事業費となっています。

次に、コミュニティ・スクール推進事業、予算額が320万円です。

それから、生徒指導総合推進事業、予算額が2015万3000円です。スクールカウンセラーを初め、スクールソーシャルワーカー、不登校対策相談員兼指導員などの配置、適応指導教室の設置などにより支援を総合的に行い、解決を図っていかうというための事業費になります。

また、共助社会づくりという施策の中では、重点施策でもありました地域コミュニティによるまちづくりや地域福祉の推進などの施策を進めているところです。コミュニティ運営協議会補助事業、予算額が3962万2000円です。市内7地域のコミュニティ運営協議会に対し、交付金として財政支援を行っています。

事業の最後です。ふれあいいいきサロン補助事業、予算額が263万1000円です。公民館などを利用した地域のボランティアと高齢者や障がいのある人、子育て中の人たちなどが気軽に参加できる集いの場をつくる活動への補助を行うものです。

簡単ではございましたが、このような事業を通して「ひかり輝くふるさとちくしの」づくりに向けた取り組みを推進しているところです。以上で、施策概要についての説明を終わります。御清聴ありがとうございました。

○（事務局） それでは、ここからは活動報告ということで、主任児童委員さんの職務等も含めて御報告をお願いしたいと思います。吉岡委員さん、お願いいたします。

○（主任児童委員） では、これからパワーポイントを使って主任児童委員の概要と活動の説明をします。

まず、主任児童委員とは。主任児童委員は平成6年1月に制度化されました。それまでは民生委員・児童委員が子どもや子育てに関する支援を行っていましたが、時代の流れとともに高齢化が進み、民生委員さんたちの負担も多くなり、なかなか子どもに関する支援まで手が回せない状態になっていました。重ねて、家庭環境の低下、貧困、ネグレクトなどの虐待が増加し、問題が広く認知されるとともに、民生・児童委員の中に子どもや子育てに関する支援を専門に担当する主任児童委員が制度化されました。主任児童委員は、地

区担当の民生・児童委員と連携しながら、子育て支援などの活動に取り組んでいます。

続きまして、主任児童委員の役割です。関係機関などとの連絡調整。私たちは、学校、子育て支援課、家庭児童相談室や地域からの情報の提供によって活動することがほとんどです。情報をいただいて家庭児童相談室に相談したり、場合によっては直接、児童相談所に連絡することもあります。情報をこちらから提供したり、いただいたりして、それを学校や保護者につなげています。

児童委員への支援活動です。制度化された当初は、主任児童委員が民生・児童委員へ支援を行うという形がとられていましたが、現在では、私たち主任児童委員が民生委員さんへ協力をお願いしています。民生委員さんによっては、朝の見守り活動で子どもの様子を把握されていますので、相談するとすぐに答えが返ってくることもあり、大変助かっています。また、民生委員さんから「最近、あの子は元気がないけど、大丈夫？」といった相談もあり、学校に連絡を入れたりします。また、民生委員さんとは校区の小学校・中学校で情報交換会などを行っています。

要援護児童・家庭への支援です。これが私たち主任児童委員の根幹となる部分です。私たちの活動の中心になります。さまざまな理由で子どもが生活しづらい状況になったとき、例えば、生活習慣の乱れで朝起きられない、食事がきちんととれていない、通学に対する不安、家庭環境に対する不安など、それらに対する見守り活動や声かけ活動を行ったりしています。そして、それらの情報や支援については守秘義務が伴い、私たちはそれを絶対に守らないといけません。なお、私たちが担当するのはマタニティから18歳までと、その家庭です。

民生委員児童委員協議会での役割です。主任児童委員は、あくまでも民生・児童委員の一人ですので、毎月行われる民生委員会に出席し、研修なども受けます。二日市民児協を例にとると、5月から7月までの3か月間は子ども月間になり、主任児童委員が中心となり、二日市民生・児童委員みんなで子どもに関する勉強を行っています。

資格及び選任方法です。基本は民生委員と選任方法は一緒です。ただし、民生・児童委員さんは区長の推薦で行われますが、主任児童委員は中学校の校長先生の推薦を受けて行われます。そして、市の民生委員推薦会に基づき、県の民生委員審査会を通して最終的に厚生労働大臣から委任されます。なので、私たちのもとに民生委員委嘱書と主任児童委員の委嘱書が届きます。

民生委員・児童委員の任期です。現在の任期は平成28年12月1日から平成31年

11月30日、3年間は任期となっております。

これが民生委員連合会の組織図になります。私たち主任児童委員は、それぞれの6つの地区の民児協、民生委員児童委員協議会の中に2名ずついます。ただし、二日市東民児協は今期新しく発足しましたので、主任児童委員は1名になっています。各小学校区に1名の主任児童委員という形になっていますが、その地区ごとの主任児童委員同士で情報の共有を行って協力しています。

二日市地区民児協は、中学校は二日市中学校を担当し、小学校は二日市小学校、二日市北小学校、天拝小学校を担当しています。そして、北杉塚地区は学業院中学校、太宰府西小学校に越境通学していますので、そちらも担当しています。二日市東地区民児協は、中学校は筑紫野中学校と二日市中学校を担当し、小学校は二日市東小学校を担当しています。筑紫野中地区民児協は、中学校は筑紫野中学校を担当し、小学校は吉木小学校、阿志岐小学校を担当しています。天拝地区民児協は、中学校は天拝中学校を担当し、小学校は山口小学校、二日市小学校を担当しています。筑紫野南地区民児協は、中学校は筑紫野南中学校を担当し、小学校は原田小学校、筑紫東小学校を担当しています。筑山地区民児協は、中学校は筑山中学校を担当し、小学校は山家小学校、筑紫小学校を担当しています。

これで主任児童委員の概要を終わります。続いて、活動の説明です。

○（主任児童委員） では、活動の報告に入りたいと思います。私は二日市東民児協の井上といいます。発足したばかりで主任児童委員が1人で、二日市東小学校、筑紫野中学校、二日市中学校を担当しています。

まず、私たち主任児童委員の活動については、ほとんどのものが写真に載せるものではありません。守秘義務のもとで、学校、地域、家庭から相談されたことを関係機関につなぐということが主な活動となります。主任児童委員は窓口であり、架け橋の役割が主な活動となります。

私たち主任児童委員は、民生委員・児童委員の一員として月1回の定例会に参加しています。民生委員・児童委員とともに研修に参加して、定例会の中では主任児童委員からの報告も毎回行っています。心配なお子さんの情報に関しては、個別に民生委員・児童委員と情報を共有して見守っています。

次に、主任児童委員の情報交換会です。私たちは校區別におのこの活動しています。そのため、年に数回集まり、情報交換をしています。別々の場所で活動する主任児童委員が集まるという貴重な時間となりますので、有意義な時間にするようにしています。家庭児

童相談室の先生や養護の先生などもお呼びして、子どもたちのために何ができるかというのを学ぶ時間にもしています。

次に、主任児童委員と学校とのつながりです。子どもたちに関する情報の窓口は主任児童委員となっており、民生委員・児童委員へ学校から直接連絡されることはほとんどありません。そのため、学校運営協議会、安全支援部会、拡大教育会議、ケース会議などに参加して、これらの会議の中で、困っている子どもたちや保護者について話し合い、必要に応じて関係機関とも連絡をとっています。会議の中には、教育委員会、市役所、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、警察、スクールサポーター、青少年指導員や補導員の方々が必要に応じて参加されています。また、保護者から学校への質問や相談等の窓口となることもあり、学校と保護者とのワンクッションを置くという役割もしています。私たちは学校の応援団であるというスタンスで活動をしています。これが主任児童委員の本来の活動の根本となるものです。

本来の活動については先ほどお伝えしましたが、そのために、地域の子どもたちをさらに知るためにさまざまな見守り活動を行っています。写真にあるように、どんど焼き、子ども会行事、夏祭りなど、各地域で行われており、子どもさんたちもたくさん参加していますし、その中で保護者さんたちと顔見知りになったり、主任児童委員を身近に感じてもらえるという時間にもなっています。

子育てサロンについてですけれども、未就学児への関心も高まり、市内の子育てサロンからも声がかかるようになりました。若いお母さんたちとお話しをすることの大切さを感じながら、先輩お母さんとしても一緒に見守りをしています。

学校行事への出席についてです。学校側も主任児童委員が子どもたちの専任の民生委員・児童委員であることを理解していただき、さまざまな学校行事に出席依頼があります。入学式、卒業式、文化祭、体育祭、その他いろんな行事の参加依頼があります。行事に出席したときには、心配なお子さんの情報交換をすることも多く、そういうお子さんたちを見守りながら行事を楽しんでいます。

また、学校での活動の一環なんですけれども、今年度初めて、夏休み前にボランティアに出る中学生に対して地域とのかかわりについてお話しをする機会を与えていただきました。学校、家庭、塾とも違う、地域の中にも相談できる人がたくさんいるんだよということをお話しし、特に主任児童委員はあなたたちと関係機関をつなぐ架け橋の役割があるので、困ったときには思い出してほしいということをお話しすることができました。その中

で地域ボランティアの中に入って頑張ってきてねと励ましてきました。

次に、学習支援ですけれども、学校運営協議会の中で、学力向上と子どもたちの居場所づくりに何かできないかというお話から始められた活動です。コミュニティ・スクールの支援本部の中に主任児童委員が入っており、その関係で地域のボランティアさんの関係のもと、学校とも連携をとりながら子どもたちを見守っています。ささいな生活の悩みなど、お話ができる機会ともなっています。

そのほか、体育祭の見守りや登下校の見守りなども行って、一緒に見守っています。

観月会や成人式の写真です。観月会につきましては、安全支援の会議の中で、問題行動の心配がある子どもたちがこの観月会に集まるのではないかとという可能性があるということで見守りの依頼があり、声かけをしながら見守っています。最近はそのような問題行動を起こすお子さんにあんまり出会うことがありませんが、知ったお子さんたちに会うと声をかけ合ったり、花火も楽しんでいます。成人式ですけれども、私たち主任児童委員は、先ほども説明があったように、18歳までの担当となっていますが、それまでにかかわってきた子どもたちの成長を見るためと、問題行動を起こす子どもたちが集まるという可能性があるために見守り依頼があり、参加している行事です。実際は、元気のよい新成人に声をかけると、「あ、何か知っているおばちゃんだ」という感じで落ちついてくれたり、立派に成長した新成人に声をかけられたりといううれしい出来事もたくさんありました。

最後に、私たち主任児童委員は、年に1回、視察研修をし、SOS子どもの村や、今年度は田川ふれ愛義塾に行って、更生施設の人たちと情報交換をすることができました。このような視察研修を通し、子どもたちに寄り添うという主任児童委員の活動がさらにできるようにと学んでいます。これからも頑張っていきたいと思います。以上です。

- （主任児童委員） では、主任児童委員の活動の中で事例発表をしたいと思います。先ほど、要援護指導、家庭の支援が私たちの根幹になるというふうに説明しましたが、その活動内容はさまざまです。そのさまざまな活動の中から3つを紹介したいと思います。

では、事例、母子一時保護の件です。

（事例発表）

- （主任児童委員） 続きまして、父子家庭の見守りについて発表させていただきます。筑紫野南中学校と原田小学校を担当しています赤田と申します。お願いします。

（事例発表）

- （主任児童委員） 二日市地区民児協の富松です。9年間の見守りについて発表します。

(事例発表)

○(事務局) ありがとうございます。この短い時間では語りつくせない本当にいろんな活動があるということがわかりました。まさに皆さんが地域の中で子どもたちの未来をつなぐために、子どもたちの未来のために手をつなごうと、安心して健やかに育つことができる地域社会づくりにさまざまな面で御尽力いただいているということが伝わってきました。ありがとうございます。

ここからはもう少し皆さんの活動について掘り下げてお話を伺ってまいりたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

今、パワーポイントの中では、地域行事に皆さん、それぞれ深くかかわっていただいているという報告がございましたけれども、その中で子どもたちの見守りをさせていただくこともございましたが、地域行事の特徴的な行事であったり、エピソードであったりを少しずつ教えていただきたいと思います。山内委員さんは阿志岐ふれあいフェスタに長くかかわっておられるということで聞いておりますが、その辺のお話もお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○(主任児童委員) 筑紫野中地区で阿志岐小学校校区を担当しております山内と申します。私が担当している阿志岐小学校では、毎年10月に阿志岐ふれあいフェスタというものを開催しております。市長にも足を何度も運んでいただきまして、ありがとうございます。

その中で、私たち民生委員は、野外調理というブースを開催当時から任されておまして、そこでは鳥の丸焼きコーナーをやっております。一斗缶の中に首をつるして鳥を焼く、その工程を子どもたちに教えていきます。鳥に塩コショウを振り、おなかの中にタマネギ・レモンで、また塩を振って、これをつるして1時間ほど焼いていくということを子どもたちに教えています。教えているのはなぜかといいますと、最近では台風・大雨などで災害が起きておりますけど、そのときに電気・ガスがなくても料理ができるんだよということを子どもたちに少しでも覚えてもらおうということで、民生・児童委員コーナーが野外調理の鳥の丸焼きコーナー、それと、青少年指導員・補導員さんたちが鍋炊飯ということで御飯を炊いて、横に並んで野外調理という部門で子どもたちに指導をしております。

子どもたちは5年生が授業の一環として私たちのコーナーに来ますので、そこで子どもたちと地区の民生委員さんとの顔合わせ、また、いつも朝見守りをしている子どもたちから「あ、おじちゃん」とか、いろいろそこでまた和気あいあいとした話し合いや会話ができたりとかしておりますので、朝の見守りもそれからまたなおさら「おじちゃん、この前

はありがとう」、「おばちゃん、この前はありがとう」ということで民生委員さんにも声をかけてもらえるようになって、随分子どもたちと仲よくなった、表情が明るくなったということで喜んでいただいております。私たちも、これからもずっとそのように子どもたちを見守りながら、地域のために尽くしていきたいと思っております。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。次に、永川委員にお願いしたいと思えます。

○（主任児童委員） 筑山地区担当の永川と申します。私のところでは、筑紫コミセンで毎月第4日曜日に、にぎやかな日曜日という乳幼児を対象とした本の読み聞かせとか、おもちゃで遊ばせたりとか、時間的には本当に1時間と少しですけど、若いお母さん方、お父さん方に赤ちゃんとか乳幼児を連れてきていただいて子どもたちと触れ合うという催し物をしています。最近をよくお父さんと赤ちゃんだけ2人で来られていて、いつときでもお母さんが楽にできたらということで、お母さん思いのお父さんが増えてきたなと思って感心しています。

それと、小さいときから触れ合っていて、もし、これから入学したりするときには何かあったりすると、顔を覚えていただいとくと、何かあったときにお母さんも子どもさんも「あ、おばちゃん」と。最近をよく買い物とかでも会ったら、私のほうが気づかないでいると、「この間、絵本ありがとうございました」とか、「すごく楽しかったです」とか、ちょっとリピーターというか、また行ってみようということで、「また今度来ます」とかよく言われて、声もかけていただけるようになったというのが、私たちが少しは自分たちも何か役に立っているのかなということで喜んでる次第であります。

それと、私個人で中学校の正門に、これはもう毎日ではないんですけど、立てる日だけ挨拶運動ということで、小学生はよく声かけすると話も長続きするし、すぐお友達になれるんですけど、中学となるとなかなか何かあったときに、子どもさんとお話するときには話がなかなか続かなくて、やっぱり中学生って思春期の時期で難しいなと思って、個人的に正門に、ここ2、3年なんですけど、見守り運動というか、時々先生方も立たれて一緒に挨拶運動をしているんですけど、それも何かあったときに、相談とかがあったときに子どもさんが「このおばちゃん、何か見たことある」とって思ってくれたらいいなと思って挨拶運動をしているところであります。そうすると時々、夕方帰るときとかに、部活帰りとかに「おばちゃん、さようなら」とか、「いつも朝ありがとう」とか、たまに子どもたちも声をかけてくれるので、それが私の喜びになっています。

何かいろいろ学校とかでも問題が起きたときには、主任児童委員さんということで、校

長先生方や教頭先生方、担任の先生方、ここ数年はすごく頼っていただけるようになって知名度も少しは広がってきたかなという気がしています。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。続きまして、畠添委員からお願いいたします。

○（主任児童委員） 私は武蔵に住んでおりますけれども、地域の行事には必ず出席するようにしています。地域行事の中で、身近にわらとか竹がありますので、しめ縄づくり、門松づくりをやっていきます。そこに2、3年前から天拝中学校の生徒が地域貢献活動ということで、授業の一環でしめ縄と門松づくりに参加してくれるようになりました。わらを編むところから完成するところまで、中学生の力を借りて今はやっています。公民館に飾るだけではなくて、天拝山の荒穂神社にもこのしめ縄を奉納しています。なので、子どもたちに日本の伝統をつなぐということで、これはこれからも大事にしていきたいと思っています。今年も門松をつくる時期になっていますので、いろいろと準備をしているところです。わらもしめ縄用に長いわらをつくっている方が近所にいらっしゃるんですけど、分けていただいて長いわらを育てるところから子どもたちとやっていけたらいいなと思っています。以上です。

○（事務局） 続きまして、坂島委員、お願いいたします。

○（主任児童委員） 私は山家小学校が担当でして、山家小学校は児童数が百四十数名の小さいところなんですけれども、去年度からコミ協主催の子育て支援というのを福祉部主催でやっております。今年の11月で三度目でしたけれども、二度目のときには吉岡先生に親子ヨガをしていただいて、最初1時間が子どもたちと遊んだり、二日市にある、おもちゃ図書館赤ずきんというボランティアの団体からおもちゃをたくさん借りてきまして、おもちゃで遊ばせながらお母さんたちと、パンを買ってきてまして、パンとお茶でお茶飲みしながら、未就園児のお子さんと親御さんとの子育てサロンを開催しております。今回で三度目でしたけれども、お母さんたちから「1カ月に1回あるといいんですけど」とおっしゃっていただいています。

それと、ちょっといろいろ家庭的に大変な方がいまして、4月から毎日、学校行くのに迎えに行っていたお子さんがいます。私、11月に入院いたしまして、そのときにはもうとってもそのことが心配で電話とかしていたんですけども、おかげさまで毎日、学校に行っていて、永川さんからも毎日行っているよと、もうそれが最近とってもうれしいことでした。

○（事務局） ありがとうございます。先ほど、永川委員からも登下校時の見守り等を行

っているということでしたけれども、渡辺委員さんも登下校時の見守りを長くされていらっしゃるということで、その中でエピソードとか、よかったこと、うれしかったこととかがありましたらお教えいただきたいと思います。

○（主任児童委員） 筑紫野中学校と吉木小学校を担当しております。私が住んでいる宮の森で「立つぞう隊」という朝、原交差点に立つ団体があります。その会長さんから、多分主任児童委員をする以前から、ちょっと記憶がはっきりしないんですが、朝、週一でいいので立ってくださいということで、いいよというふうに気楽に続けていたのが今も続いています。

私は保護者の方と一緒に毎週金曜日、交差点に立ち、子どもたちの見守りをしています。毎週、週一ですけど、子どもたちと顔見知りになるので、学校の参観に行ったときは笑顔で子どもたちが会釈をしてくれたり、手を振ってくれたりとうれしい場面もあります。また、学校でちょっとこの子は問題があると聞いている子どもさんが交差点で大きな声で「おはよう」とか、ハイタッチをしてくれるので、すごくうれしく思います。6年生が卒業する前、3月ごろには、先ほどパワーポイントでありましたけど、筑紫野中学校の学校支援で活動しておりますので、「おばちゃん、中学校に行ったらいるよ」というふうに安心を少しでもしてもらおうと思って声かけをしております。これからも体の続く限り続けていきたいと思っています。

○（事務局） ありがとうございます。坂島委員はもうよろしかったですか。

○（主任児童委員） 私も毎日、小学校に行きまして、子どもたちとなるべく顔見知りになって、少ない人数ですので、ほとんどがもう顔と名前がわかっています。

○（事務局） すごいですね。もう顔と名前が大体わかるという。

○（主任児童委員） そうですね。御近所ですし。

○（檜木健康福祉部長） すみません、健康福祉部の檜木でございますが、1つ教えてください、坂島さん。

○（主任児童委員） はい、何でしょう。

○（檜木健康福祉部長） 毎日、立ち番をしていただいておりますけれども、その中で、毎日同じ服装だとか、遅刻ぎみだとか、そういった変化の中から例えばネグレクトに係るような事案を発見されたことがあるというふうにお聞きしたんですけれども、そこら辺、差し支えがなければお話しいただけませんか。

○（主任児童委員） いろいろ家庭的に大変な状況のお子さんがいらっしやいまして、私ち

ようど幼稚園にもちょっとかかわっていたものですから、その子は幼稚園のときから知っていて、学級保護者会をしたりして、今は落ちついているみたいです。

遅刻がちは大体同じお子さんで、私もどのくらいその御家庭にかかわっていいものかわかりませんので、先生と御相談して対応するようにしております。あんまり個人的に家庭とは接することができないものですから、学校を通してというふうな活動をしております。

○（**檜木健康福祉部長**） ありがとうございます。

○（**事務局**） 引き続き、ぜひ見守りを続けていただきたいと思います。森田委員さんは、長く主任児童委員さんとして続けてこられていますが、初期のころと比べて今変わった点とか、昔の長い歴史をちょっと語っていただけたらというふうに思います。

○（**主任児童委員**） 私が10年目に入りまして活動の中で感じることは、現在、学校とか行政、地域での出席する行事と参加する行事がものすごく増加してきているということを感じます。

それと、学校では、不登校、いじめ、発達障がい、虐待、特に発達障がいのお子さんが増えているというのが注意すべき点ではないかなと思っております。今、テレビでもラジオでも発達障がいの特集をやっていますが、私たちが今まで目につかないようなことが、それを発達障がいだという事例がかなり出てきていますね。それをやっぱり認められない御家庭、やっぱり隠したいというんですかね、そういう家庭も多いと思います。

それから、家庭での状況としては、家族のあり方がここ何年かで変化がものすごく急激にあったりして、共働きから父子家庭、母子家庭が多くなり、子どもたちの生活の環境が少しずつ不安定になってきています。ですから、心の豊かさ、経済的豊かさのバランスがとれなく、貧困の格差が起きていると思います。

それから、1日1日状況が変化する中で、限られた主任児童委員の中で対処して皆さんが頑張っておられます。私は特に個人的ですけど、仕事を持ちながらさせてもらっているので、本当は踏み込みたいんですけど、なかなかそこまで手が回らず、本当に申し訳ないと思います。だから、より一層、弱者の方に手が添えるような行政になってほしいなど、そういうふう感じております。以上です。

○（**事務局**） ありがとうございます。赤田委員も長く経験をされていらっしゃるけれども、何か歴史を振り返って主任児童委員さんとしてどうでしょうか。

○（**主任児童委員**） やはりひとり親家庭が増えてきたなというふうに感じますね。先ほど

の発表は一人っ子でしたけれども、今抱えている家庭は6人兄弟で母子家庭ということで高校生の子がいたりするので、兄弟が多い分、まだ。そこのおうちも見守ったりはしているんですけど、非常にひとり親家庭が増えてきたなというのを感じているところです。

個人的には、筑紫野南地区の民児協の中で先ほど発達障がいについて出てきましたので、仕事の関係上から民児協の皆さんにお時間をいただきまして、発達障がいについての学習会をさせていただいたりしております。その中で私たちも知っていくというところからかなというふうに思います。

○（事務局） ありがとうございます。富松委員はさきほど9年間の子どもの見守りを続けていただいたということでございました。主任児童委員さんとしての地域社会の中での認知というか、主任児童委員さんの職務を皆さんにだんだんわかっていただけたという感じはありますか。

○（主任児童委員） 少しずつですけども、皆さんに理解していただいているなというのを感じます。

○（事務局） どういった点でその辺を。

○（主任児童委員） いろんな行事に参加していくことが多くなりましたので、そこでいろんな方に声をかけたりとか、子育てサロンにも出ていけば、そこでも親御さんにお会いしたりとか、行事のたびごとにいろんな関係機関と顔を合わせて、そこでお話ししたりしますので、そういった点で一般の社会の中にも少しずつ浸透してきているなと思います。

○（事務局） ありがとうございます。それでは、この間ずっとお話を聞かせていただきましたけれども、他に何か皆さんのほうから地域での出来事であったりとか、エピソードとか、その辺で何かありましたら、ぜひ出していただけたらと思います。井上委員は二日市東地区で1人で活動されていらっしゃるということですが、何かございませんか。

○（主任児童委員） 新しく発足されて、前は筑紫野中地区のほうにいたので渡辺さんと2人。でも、お前は1人で大丈夫と出されて1人で頑張っているんですけども、学校とか、私が最初に主任児童委員になったときは一番下の子が中学を卒業したと同時だったんですね。ママ友、そういった方がいっぱいいて、学校の役員とかもしていましたので、そういう人脈があって、そこから「何かあの人、学校とかかわる人みたいよ。相談してみたら」ということで保護者さんのほうから、小さなことでいえば部活の先生の対応がおかしいよとかいうときにちょっとワンクッション、ダイレクトに学校にその保護者が話すよりは間に入って中立という立場、先ほども発表したように、私たちは最初に主任児童委員に

なるときに「学校の応援団であれ」と言われてなっていましたので、先生たちがそのように発言した真意をちゃんとかみ砕いて保護者の方にお伝えし、保護者の方は「あ、そういう意味だったんですね。うちの子が言っていることが全部じゃなかったんですね」という誤解が解けたり、あとはそういった問題で学校の先生と夕方4時ぐらいに訪問してグラウンドで話していて、もう真っ暗になる8時過ぎまでずっと子どもたちのことを話したりしてきました。

やっぱりいろんなお母さんたち、お父さんたちと接して感じたことは、こんなことを学校の先生に言ってもいいんだろうかというような素朴な疑問、言ったら先生は自分の子どもたちを見ているので自分の子どもたちに不利はないんだろうかというすごい心配があったところをすごく感じたので、学校というところは垣根が低いところで、先生方はあなたのお子さんたちが輝くために何をしようかということが一番に考えていらっしゃるんですよということをずっとお話しし続けた結果、じゃあ、学校に言えないことは主任児童委員さんに窓口になって言ってもらったらいいいんだねという感じで保護者さんたちとおつき合いすることができましたし、その兼ね合いで、コミュニティ・スクールになったときに、そういったお母さんたちが自分の子どもが卒業した後も、何かじゃあ学校とかかわろうかなということでボランティアさんとして残っていただき、自分の子どもが卒業した学校にちょっとした御恩返しをしたいということでいろんなことに今参加していただいて、全体でやっています。

そんな中で、「どうもちょっといじめの会話をしているようなことがあったけど、学校にちょっと調べてもらえない？」とお母さんから情報があつたのもとても役に立っているので、そういつて寄り添いながらしていくということで頑張っていきたいと思っています。

○（事務局） ありがとうございます。市長もずっと話を聞かれて、何かありましたら。

○（藤田市長） 皆さん方のお話を聞く中で、石内会長さんとはよくお話しする機会もあるんですが、主任児童委員の米元委員長さんと話す機会というのは、地域の寄りごとでお会いすることはありますが、なかなか話す機会がないんですね。したがって、民生委員・児童委員さんと主任児童委員さんのその役割がはっきりこっちに伝わってきていない部分というのがあったんですね。それで、なぜ区長さんが苦勞して民生委員・児童委員さんを選任して、何でそこから校長先生がまた主任児童委員を選任しなければならないのかというのが、私としては疑問でした。

しかし、今日、この場で皆さん方が非常に地域に入っていくためにも民生委員・児童委

員さんとコンタクトをとりながら、また自分たちが与えられた任務の中の主任のついた児童委員としての活躍ぶりというのは、これは話の中でもいろいろ出ましたけど、非常にこれは並大抵の苦勞ではないと思いますね。

さすれば、行政としては何ができるかということも、皆さん方の言葉の端々から考えさせられたことも多くありましたので、即解決ということに結びつくことは難しいところもあります。なるだけ行政として前に改善に向けて進むことは努力していきたいと、このような感じを受けました。全体的な話になってしまいましたけど、そのように感じました。どうも皆さん、ありがとうございます。

まだ時間はありますから、お話を聞かせてください。

○（米元委員長） 地区の行事にも御参加いただきまして、ありがとうございます。

市長の卒業校である山口小学校ですが、小学校で招待給食がごございますね。よく市長もおいでになったみたいですが、私どもも行って子どもたちと一緒に御飯を食べたりするんですけど、歌を歌ってくれたりとか何だかんだしてくれて涙が出そうになるんですけど、妙に年とってきたら涙腺が緩くなりました。それで、給食の件なんでございますが、主任児童委員さんみんなに聞くと、小学校の給食のおかずが少ないんじゃないかという話が出るんです。他の民生委員さん方は「いや、おいしかった」と言われるんです。主任児童委員の方は、ほとんどの方は「おかずがちょっと少なくて子どもたちには足りないのではないか」と言われるんですけど、いろいろと予算の件もございましょうし、地産地消の件もございましょうから、そう簡単にはいかないと思いますが、もう少し私たちが食べていたころはもうちょっとおかずがあったのではないかなという気がしますものですから。

○（藤田市長） 給食の件ですけど、今、9700食つくっています。それで、これは共同調理場でつくっているものですが、これは毎年、小中学校に、小学校は2校、中学校は2校、私が毎年食べに行っています。8年間食べ続けています。ですから、おかずが少ないとかいうようなことは余り子どもたちの中からは出ませんね。「給食少くない？」と聞いても「少くない」、足りないときは、みんなでおいしいときは分け合って食べているんです。余った物がない。それと、残菜が前はパーセンテージにしても5%近くあったときもありました。大きいですよ、5%というのは。今は0.1、0.2ですよ。残菜がほとんどない。それだけ教育課程の中で、生き物からもらっている命を大切に食して、自分たちの健康な体をつくりましょうという教育が徹底してきていますね。

ただ、どの学校も言うのは、「何か欲しい物はない？」と言ったら「デザートもう少し

お願いします」と小さい声で言います。そういうようなことはありますけど、おいしいと言ってくれていますね。

それが全てじゃないと思いますので、もっとやっぱり今は米元委員長が言われましたように地産地消が大事です。市内は農業に従事してもらっている農業生産者が多いので、JAから提供してもらっているんですけど、地元産の農産物が足りないんですよ。他からまだ仕入れていて給食をつくっているぐらいですから、もっと地産地消を伸ばすために農家の人たちにも協力していただいて、JAからしか入れていませんので、そういうところもまた改善していきたいと思っていますね。

○（米元委員長） ありがとうございます。

○（主任児童委員） 二日市民児協の吉岡と申します。私も10年ぐらいしていて、本当にいろんなところが変わったということは、先生たちや学校とかは当然、主任児童委員ということを知っていますので、今はもう本当に何かあれば主任児童委員という形なんですけど、保護者の方たちというのが最初はなかなか主任児童委員ということを知らずに相談というのがなかなかなかったんですが、ここ最近は、保護者から直接、主任児童委員のほうに相談があるということもあります。

その中で重いケースとかになると、発達障がいとか、自分の子がそうではないかとか、そういう不安もあるのか、あとはいじめだとか、そういうなかなか重いのもあるんですけども、子どもがそうやって発達障がいだったりとか、あとは反対にうつ状態になるとか、そういうことがあったときに、私たちはアドバイスを一切しません。確実に行政機関につなぐという形にするんですけども、そのときに、じゃあ、スクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカーの方たちに相談してみたらと言いますが、最初はなかなか「いや、それは」とか言っているんですが、だんだんと「そう、じゃあ、スクールソーシャルワーカーの方に」とか、「スクールカウンセラーの方に相談してみまじょうか」というところまで行くんですね。そうしたら、すぐに家庭児童相談室に相談したり、学校のほうにつなげたりして、この方がスクールカウンセラーに面談したいと言っている、日程を組んでほしいということをお願いすると、なかなかスクールソーシャルワーカーさんとかスクールカウンセラーさんはすごい人気があって、なかなかこの日というのがとれないんですね。そうすると、またそのお母さんや子どもが、ここで相談という気持ちがしぼんでいたりするケースもあったりするということがあります。

先ほど、市の説明のほうで、スクールソーシャルワーカーとか、しっかり予算を組まれ

ていて、私たちにとってはとてもそれが助かるんですね。これから先も本当にスクールソーシャルワーカーとかスクールカウンセラーが生徒やお母さんたちにとってものすごく大事な存在であるということを身にしみて感じておりますので、またそれを本当に、もちろんわかっていただけでは思っているんですけれども、これから先も、もしできれば人数は、即というわけには決していかないと思っています。予算のこともあるのでですね。現状としてスクールソーシャルワーカーさん、スクールカウンセラーがすごくみんなから期待されているということを知っていただきたいなと思っています。

○（藤田市長） なかなかいい意見ですね。プラスアルファ、プラス云々ということまでは言明できませんけど、貴重な意見として伺っておきたいと思っています。大事ですよ、これは本当に。やっぱり相談する機関が、行政の直結した機関が充実しておるといのは、これはもう今から先も教育政策の中で大事なことだと、そういうふうに思っております。

○（主任児童委員） よろしくお願いたします。

○（石内会長） 今、主任児童委員さんのお話が県のほうの協議会の中で、県のほうに今までは主任児童委員って上がって行っていなかったんですよ、組織的にあんまり。今から主任児童委員の役目というのがどんどん大きくなってきたというか、私もその組織委員会に入っておるんですけど、これから県の組織の中に主任児童委員さんを入れて、組織の中でいろいろ意見を述べていただくということで県のほうも力を入れてきております。このごろも主任児童委員の皆さんには研修とかが県のほうからも多く入ってきておるんですけど、このごろも何回かあっておるんですね。そのように、主任児童委員の役目というのがまた大切になってくると思います。

○（事務局） ありがとうございます。主任児童委員さんとしては、山内委員は1年目ですけど、PTAをずっと務めてこられたと思います。これから先、主任児童委員さんとしてはどのように考えておられますか。

○（主任児童委員） 私、小学校のPTAの会長と中学校のPTAの会長とさせていただきまして、民生委員は2期目になります。1期目は地域の民生委員をやっておりまして、お年寄り方などのお世話をしておりまして、2期目から主任児童委員ということでやらせていただきまして、まだ1年目で何をやっていいのか、主任児童委員とは何ぞやということから今、勉強しているところでございます。

その中で、PTAの役員をやっていたこともあり、保護者の方ではいろいろな顔見知りの方もいらっしゃいますので、いろいろ相談を受けることもあるんですね。いまだに、子

どものこと、学校のこと、そういうことで、それとまた、学校にいろいろつなげていって子どもたちがいかに安全に楽しく学校に登校できるか、また、困っている子どもたちを少しでも救えたらということで頑張っております。

地域では、ひとり親家庭があるんですね。そうすると、どうしても子どもに行くんですね。お父さんが仕事に行って、早いから起きられない、学校に遅刻する。また、母子家庭の場合には、お母さんがどうしても夜の仕事につかれる方が多いので、朝、お母さんがなくて起こしきれない、また、子どももやっぱり寝ている。お母さんが夜仕事をしているので、子どもも夜遅くまで遊んでいる、ゲームをしたりとか。そういう悪循環の家庭もありますので、その辺を地区の民生委員さんに、「あの子は朝見かける？」とか、「何かあったら声かけて」と言ってお願いをしております。

その中で、なかなか家の中までは私たちが入って行って起こして学校行くよとかいうこともできませんので、見守るだけしかできないんですけど、その辺ももうちょっと学校とも協力しながら、民生委員さんとともに子どもたちを学校に送り出して、立派な社会人できるようにまたこれからも務めていきたいなと思っています。

○（藤田市長） ありがとうございます。

○（主任児童委員） 先ほどパワーポイントとか他の委員さんからもよく出たと思うんですけど、今から10年ぐらい前は、主任児童委員の活動や名前すら私も正直知りませんでした。地域コミュニティ、コミュニティ・スクールを設置されたことによって私たち主任児童委員はいろんな場所で出席依頼があります。見ていただくとわかると思うんですけど、ほとんど皆さんが若いです。現役で仕事を持っております。昼間のそういった活動に出席ということは、仕事を休んで出席することになりますので、1人でなかなか担うのは大変なところがありますので、今後、増員とかの御配慮をいただけたらと思う次第です。

○（藤田市長） 貴重な意見を出しますね。これも厚生労働省の最終的には認可になりますので、行政として「わかりました」と言うことまでにはいきませんが、声として聞かせていただいております。

○（事務局） 先ほどから石内会長のほうからも言われましたけれども、皆さんにますます、県レベルのほうでも期待がかかっているところでございまして、皆さん方、今後とも地域での見守り活動をぜひ継続していただきたいというふうに思った次第でございまして。最後に何かありませんか。

○（米元委員長） 今日市長さんと貴重な意見交換をさせていただいて、本当にありがと

うございました。さっきから皆さんが言ってありますけれども、本当に10年ほど前までは、学校へ訪問しても主任児童委員って何ですかと言われていたんですよ。本当に肩身の狭い思いをしておりましたけれども、こういうふうに移動市長室の目にとまったということは、どこかで私どもの活動も市の方の目にとまって、ちょっと今度してやろうといったことになったんじゃないかとみんなで話しておったんです。みんな、うれしいことだなと。今日、市長さんが来られたら、みんなそれぞれ思っておる内容を半分ずつ言おうということで、それで話し合っただけで今日を迎えられて本当によかったと思っております。本当にありがとうございました。

○（石内会長）　ありがとうございます。本当にいい機会を主任児童委員の皆さんと一緒に、市長さんと一緒に本当に率直に話ぐできたということは本当に喜ばしいことです。感謝いたします。

○（事務局）　最後に、市長のほうからお礼の御挨拶ということでお願いします。

○（藤田市長）　本当に今日は大変お忙しい中に、主任児童委員の皆様方とこういうふうな懇談をさせていただいて、気づきや目覚めの機会をつくっていただいたことは大変ありがたいと思っています。石内会長さんの民生委員・児童委員連合会はものすごく多いので、こんなに話をする機会というのはつくってはもらっているんですが、十分に聞くことができないものですから、今日はそういう意味では主任児童委員の皆さん方の全部じゃないでしょうけど、今の米元委員長の話からしますと、半分は出されたと。またの機会にあとの半分以上を聞かせてもらえれば丸になるのではないかと思っておりますが、いずれにしても、広報紙等に今日の状況は載せさせていただいて、市民の皆さん方に主任児童委員とは、というところから記載をさせていただければと、このように思っておりますので、御理解をいただきたいと思っております。

またこの後、皆さん方の感想も少し聞かせていただきながら参考にさせていただきたいと思っておりますので、どうぞ皆様方の声を期待しております。本当に今日はどうもありがとうございました。

○（事務局）　これをもちまして、86回の移動市長室を閉めさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。